



燃える滝二の創造

No. 32

文責：校長 岡田

■今年度最後の全校朝会 ■ 3 / 3 (火)

ミラノ・コルティナ 2026 オリンピック 2.6-2.22 **光と影**



史上最多のメダル獲得
金5、銀7、銅12
いつの間に日本は
こんなに強くなった？
昔は vs 韓国、vs 中国
世界と戦う TEAM JAPAN

日々熱戦が繰り広げられたミラノ・コルティナオリンピック。現地時間2月13日(金)には人気種目の1つ、フィギュアスケートの男子シングル：フリースケーティングが行われた。

注目を集めたのは、ショートプログラムで首位に立っていたアメリカ代表のイリア・マリニン選手。2023年12月から約2年2か月、個人戦14連勝を誇り、オリンピック前から金メダルの最有力候補と言われ続けていた。しかし、勝負のフリー本番では、転倒やジャンプの失敗が続き、「世紀の失速」と言われるほどの15位に沈下。総合8位に終わる大どんでん返しが起きた。そのマリニン選手が自身のSNSを更新、ネット上に書き込まれる**憎悪発言**について言及した。



「世界最大の舞台で、最も強く見える者たちでさえ、内面では見えない戦いを続けている。」

「最も幸せな記憶さえ、雑音に汚されてしまうこともある。

卑劣なネット上の憎悪が精神をむしばみ、恐怖が闇へと誘う。

果てしなく押し寄せる、乗り越えられない重圧の中で、いかに正気を保とうとも…。」

「こうした瞬間が目の前を駆け巡るうちに、全てが積み上がり、避けられない崩壊をもたらす。」

「これが、その物語の一面である。」

「Coming February 21, 2026.」

<岩手日報 2026. 2. 18「論説：問われる日本人の良識」>

冬季五輪の熱戦に水を差す暴言を許すことはできない。1日2千件に及ぶ中傷にさらされる選手たちは「何と戦っているのか」と絶望するが、投稿した側は深く考えていない可能性が高い。結局は感情に任せられた暇つぶしではないか。選手や競技に思いがあれば、心をえぐるような暴言など投稿しない。

ネット上では誰もが「無免許運転」になりかねず、中には暴走やおとり運転を繰り返す不屈者もいる。言葉の暴力にどう対処するか。和を重んじる日本人の良識が問われている。

<全校朝会 2026. 2. 3「正義中毒～生徒間暴力の SNS 拡散問題から考える～」>

「本当の悪人とは、悪に染まった人間ではない。自分が正義だと、勘違いしている人間である。その勘違いで、相手を死ぬまで追い詰める。」